

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|---------|--|--|------------------------|
| 共 - 1-4 | <p>1 - 1 - 2 用語の定義</p> <p>40. 工事完成とは、請負者が契約図書に記載された工事を工期内に完成させ、長崎県建設工事執行規則に基づく工事完成通知書を通知した日をいう。</p> <p>1 - 1 - 6 施工計画書</p> <p>1. 請負者は、請負代金が500万円以上～</p> | <p>原文なし</p> <p>1. 請負者は、請負代金が250万円以上～</p> | <p>追記</p> <p>表現の変更</p> |
| 共-1-5 | <p>～ただし、請負代金が500万円未満であっても～</p> <p>1 - 1 - 7 工事カルテ作成、登録</p> <p>～（ただし、工事請負代金額500万円以上2,500万円未満の工事については、受注・訂正時のみ登録するものとする。しかし、工事請負代金額2,500万円を越えて変更する場合には、変更時登録を行うものとする。）</p> <p>変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金額のみの変更の場合は原則として登録を必要としない。</p> <p>また、登録機関発行の「工事カルテ受領書」～</p> | <p>～ただし、請負代金が250万円未満であっても～</p> <p>～（ただし、工事請負代金額500万円以上2,500万円未満の工事については、受注・訂正時のみ登録するものとする。）</p> <p>また、登録機関発行の「工事カルテ受領書」～</p> | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |
| 共-1-11 | <p>1 - 1 - 2 1 建設副産物</p> <p>4. ～工事請負代金が500万円以上の場合には～</p> | <p>4. ～工事請負代金が250万円以上の場合には～</p> | <p>表現の変更</p> |
| 共-1-12 | <p>5. ～最終請負金額が500万円以上の工事については～</p> | <p>5. ～最終請負金額が250万円以上の工事については～</p> | <p>表現の変更</p> |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|------------------------|
| 共-1-12 | ~ 監督職員に提出しなければならない。なお、設計図書に記載された事項が、優先されるものとする。 | ~ 監督職員に提出しなければならない。 | 追記 |
| 共-1-25 | 1 - 1 - 3 5 事故報告 請負者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に報告するとともに、所轄労働基準監督署及び所轄警察署などのほか関係機関へ直ちに連絡し、適正に処理しなければならない。また、所定の様式（事故等発生速報、事故等発生報告書、事故報告書（休業日数4日以上の場合））を監督職員が指示する期日までに、提出しなければならない。 | 1 - 1 - 3 5 事故報告書 請負者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、所定の様式（事故等発生速報、事故等発生報告書、事故報告書（休業日数4日以上の場合））により監督職員が指示する期日までに、提出しなければならない。 | 表現の変更 表現の変更 |
| 共-1-29 | 1 - 1 - 3 9 諸法令の遵守 1 . (79) 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (平成18年法律第62号) (80) 公共工事の品質確保の促進に関する法律 (平成17年法律第18号) (81) 警備業法 (昭和47年法律第117号) | 原文なし 原文なし 原文なし | 追記 追記 追記 |
| | 1 - 1 - 4 0 官公庁への手続等 6 . 請負者は、地元関係者等から工事の施工に関して～ | 7 . 請負者は、地元関係者等から工事の施工に関して～ | 誤謬 |
| 共-1-30 | 7 . 請負者は、地方公共団体、地域住民等と工事の～ 8 . 請負者は、前項までの交渉等の内容は、後日～ | 8 . 請負者は、地方公共団体、地域住民等と工事の～ 9 . 請負者は、前項までの交渉等の内容は、後日～ | 誤謬 誤謬 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|--|------------------------|
| 共-1-37 | <p>1 - 1 - 5 3 資材等の県内優先調達</p> <p>1 . 請負者は、工事に使用する資材等については、地場産業の活性化を図るため長崎県産品を使用するよう努めること。 削除</p> <p>ただし、選定にあたっては請負者の判断による。</p> <p>5 . 請負者は、請負金額が5 0 0万円以上になる工事において、長崎県産品が調達できるにもかかわらず長崎県産品以外を使用する場合は、その理由を付した書面（様式 - 3（県内業者、県内産建設資材の活用）：長崎県内産資材を使用しない理由書）及び電子ファイルを工事完成までに監督職員に提出すること。</p> | <p>1 . 請負者は、工事に使用する資材等については、地場産業の活性化を図るため長崎県産品を使用するよう努めること。 なお、長崎県産品が調達できるにもかかわらず長崎県産品以外を使用する場合は、その理由を付した書面（様式 - 3（県内業者、県内産建設資材の活用）：長崎県内産資材を使用しない理由書）によって監督職員に提出すること。</p> <p>ただし、選定にあたっては請負者の判断による。</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |
| 共-1-38 | <p>1 - 1 - 5 4 下請人の県内優先活用</p> <p>5 . 請負者は、請負金額が5 0 0万円以上になる工事において、長崎県外の下請負人を使用する場合は、その理由を付した書面（様式 - 4（県内業者、県内産建設資材の活用）：長崎県内下請企業を使用しない理由書）及び電子ファイルを工事完成までに監督職員に提出すること。なお、当該工事の発注機関が離島の地方機関（五島地方局、上五島土木事務所、壱岐地方局、対馬地方局）の場合は、本項1行目の「長崎県外の下請負人」を「発注機関管外の下請負人」と読み替えるものとする。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|-----------------------------|
| 共-1-38 | <p>1 - 1 - 5 5 建設機械等に使用する燃料 削除</p> <p>請負者は、発注者が自らまたは発注者が指定する第三者が行う建設機械等か採油する調査に対して協力しなければならない。</p> | <p>1 - 1 - 5 5 建設機械等に使用する燃料費 軽油を燃料とする建設機械等の使用にあたって、燃料を購入して使用するときは、当該建設機械等の製作等に関する事業者又は団体が推奨する軽油を選択しなければならない。</p> <p>また、請負者は、発注者が自らまたは発注者が指定する第三者が行う建設機械等か採油する調査に対して協力しなければならない。</p> | <p>表現の変更 表現の変更</p> |
| 共-2-21 | <p>2 - 8 - 3 混和材料</p> <p>5 . 混和剤として用いる流動化剤は、JSCE-D 101に適合するものとする。</p> <p>6 . 急結剤は、JSCE-D 102に適合するものとする。</p> | <p>5 . 混和剤として用いる流動化剤は、土木学会 コンクリート用流動化剤品質規準（案）3.品質の規格に適合するものとする。</p> <p>6 . 急結剤は、土木学会 コンクリート用急結剤品質規格（案）3、品質の規格に適合するものとする。</p> | <p>表現の変更 表現の変更</p> |
| 共-2-30 | <p>2 - 1 3 - 1 一般事項</p> <p>4 . JIS K 5621（一般用さび止めペイント） JIS K 5622（鉛丹さび止めペイント） JIS K 5623（亜酸化鉛さび止めペイント） JIS K 5624（塩基性クロム酸鉛さび止めペイント） JIS K 5625（シアナミド鉛さび止めペイント） JIS K 5627（ジクロロメートさび止めペイント） JIS K 5628（鉛酸ジクロロメートさび止めペイント） JIS K 5674（鉛・クロムフリーさび止めペイント）</p> | <p>4 . JIS K 5621（一般用さび止めペイント） JIS K 5622（鉛丹さび止めペイント） JIS K 5623（亜酸化鉛さび止めペイント） JIS K 5624（塩基性クロム酸鉛さび止めペイント） JIS K 5625（シアナミド鉛さび止めペイント） JIS K 5627（ジクロロメートさび止めペイント） JIS K 5628（鉛酸ジクロロメートさび止めペイント）</p> | <p>追記</p> |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|--------------------|
| 共-3-3 | 3 - 3 - 2 材料 2 . ~ 緑石についてはJIS A 5308に準ずるものとする。 | 2 . ~ 緑石についてはJIS A 5307に準ずるものとする。 | 誤謬 |
| 共-3-16 | 3 - 3 - 1 4 桁製作工 (4) ~ 規定された溶接施工試験項目から該当する ~ | (4) ~ 規定された溶接施行試験項目から該当する ~ | 誤謬 |
| 共-3-23 | 3 - 3 - 1 5 工場塗装工 2 . ~ (素地調整のグレードは、ISO規格でS a 2.5 ~ | 2 . ~ (素地調整のグレードは、SIS規格でS a 2.5 ~ | 表現の変更 |
| 共-3-26 | 3 - 3 - 1 6 コンクリート面塗装工 5 . (1) ~ エポキシ系塗料を用いる場合で5 以下のとき ~ | 5 . (1) ~ エポキシ系塗料を用いる場合で10 以下のとき ~ | 表現の変更 |
| 共-3-48 | 3 - 6 - 3 コンクリート舗装の材料 3 . ~ 曲げ強度で4.5MPaとするものとする。 4 . ~ L、A及びB交通においては4.5MPa、またC交通においては5.0MPaとするものとする。 | 3 . ~ 曲げ強度で4.4MPaとするものとする。 4 . ~ L、A及びB交通においては4.4MPa、またC交通においては4.9MPaとするものとする。 | 表現の変更 表現の変更 |
| 共-3-50 | 3 - 6 - 5 アスファルト舗装工 3 . (13) ~ 仕上がり厚の上限を30cmとすることができるものとする。 | 3 . (13) ~ 仕上がり厚の上限を25cmとすることができるものとする。 | 表現の変更 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--|---|----------------------------|--------|----------|-------|-------|--------|---|-------------------------------|-----|-------|--------|----|-------|-------|---|------|--------|--------|----------|-------|-------|--------|---|-------------------------------|-----|-------|--------|----|-------|-------|-------|
| 共-3-65 | <p>表3 - 32 注入目地材(加熱施工式)の品質</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>低弾性タイプ</th> <th>高弾性タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度(円錐針)</td> <td>6mm以下</td> <td>9mm以下</td> </tr> <tr> <td>弾性(球針)</td> <td>・</td> <td>初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上</td> </tr> <tr> <td>引張量</td> <td>3mm以上</td> <td>10mm以上</td> </tr> <tr> <td>流動</td> <td>5mm以下</td> <td>3mm以下</td> </tr> </tbody> </table> | 試験項目 | 低弾性タイプ | 高弾性タイプ | 針入度(円錐針) | 6mm以下 | 9mm以下 | 弾性(球針) | ・ | 初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上 | 引張量 | 3mm以上 | 10mm以上 | 流動 | 5mm以下 | 3mm以下 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>低弾性タイプ</th> <th>高弾性タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度(円錐針)</td> <td>6mm以下</td> <td>9mm以下</td> </tr> <tr> <td>弾性(球針)</td> <td>・</td> <td>初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上</td> </tr> <tr> <td>引張量</td> <td>3mm以上</td> <td>10mm以上</td> </tr> <tr> <td>流れ</td> <td>5mm以下</td> <td>3mm以下</td> </tr> </tbody> </table> | 試験項目 | 低弾性タイプ | 高弾性タイプ | 針入度(円錐針) | 6mm以下 | 9mm以下 | 弾性(球針) | ・ | 初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上 | 引張量 | 3mm以上 | 10mm以上 | 流れ | 5mm以下 | 3mm以下 | 表現の変更 |
| 試験項目 | 低弾性タイプ | 高弾性タイプ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 針入度(円錐針) | 6mm以下 | 9mm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弾性(球針) | ・ | 初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引張量 | 3mm以上 | 10mm以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 流動 | 5mm以下 | 3mm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試験項目 | 低弾性タイプ | 高弾性タイプ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 針入度(円錐針) | 6mm以下 | 9mm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弾性(球針) | ・ | 初期貫入量 0.5~1.5mm、 復元率 60%以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引張量 | 3mm以上 | 10mm以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 流れ | 5mm以下 | 3mm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 共-3-81 | <p>3 - 1 0 - 2 3 足場工</p> <p>請負者は、足場からの転落事故防止重点対策として、枠組み足場の設置を必要とする場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省平成15年4月)」によるものとする。なお、手すり先行工法の採用にあたっては、二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。</p> | <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | 追記 追記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 共-4-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>土木研究センター 建設発生土利用技術マニュアル 平成16年9月</p> <p>国土交通省 建設副産物適正処理推進要綱 平成14年5月</p> <p>国土交通省 建設汚泥処理土利用技術基準 平成18年6月</p> <p>国土交通省 発生土利用基準 平成18年8月</p> | <p>土木研究センター 建設発生土利用技術マニュアル 平成6年7月</p> <p>建設省 建設副産物適正処理推進要綱 平成10年12月</p> <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | 表現の変更 表現の変更 追記 追記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|---|--|----------------|
| 共-4-8 | 4 - 5 - 1 一般事項 3 . 請負者は、伐開除根作業範囲が 設計図書 に示されない場合には、表4 - 3 に従い施工しなければならない。 | 3 . 請負者は、伐開除根作業範囲が 設計図書 に示されない場合には、表4 - 4 に従い施工しなければならない。 | 誤謬 |
| 共-4-9 | 4 . 路床の盛土材料の最大寸法は 10cm 程度とするものとする。 | 4 . 路床の盛土材料の最大寸法は 20cm 程度とするものとする。 | 表現の変更 |
| 共-5-1 | 第2節 適用すべき諸基準 1 . (社)日本圧接協会 鉄筋のガス圧接工事標準仕様書 平成 17年4月 | 1 . (社)日本圧接協会 鉄筋のガス圧接工事標準仕様書 平成 11年 | 表現の変更 |
| 共-5-2 | 5 - 3 - 2 工場の選定 1 . 請負者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、 JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場 で、かつ、コンクリート～ 2 . 請負者は、 JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場 で製造され JIS A 5308 ～ なお、 JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場 で、かつ 長崎県生コンクリート ～ | 1 . 請負者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、 JISマーク表示認定工場 で、かつ、コンクリート～ 2 . 請負者は、 JISマーク表示認定工場 で製造され JIS A 5308 ～ なお、 JISマーク表示認定工場 で、かつ 長崎県生コンクリート ～ | 追記 追記 追記 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|---------------------|
| 共-5-2 | <p>3 . 請負者は、JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場が工事現場近くに見当たらない～</p> <p>4 . 請負者は、JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場でない工場で製造された～</p> | <p>3 . 請負者は、JISマーク表示認定工場が工事現場近くに見当たらない～</p> <p>4 . 請負者は、JISマーク表示認定工場でない工場で製造された～</p> | <p>追記</p> <p>追記</p> |
| 共-5-3 | 5 - 5 - 2 材料の貯蔵 | 3 - 5 - 2 材料の貯蔵 | 誤謬 |
| 共-5-7 | <p>5 - 6 - 4 打設</p> <p>5 . ～配置しなければならない。また、圧送作業は、国家資格を有する者またはこれと同等以上の技能を有する者を選定するのが望ましい。</p> | 5 . ～配置しなければならない。 | 追記 |
| 共-5-10 | <p>表5 - 3 コンクリートの養生期間</p> <p>〔注〕寒中コンクリートの場合は、第1編第5章第10節寒中コンクリートの規定による。</p> | <p>〔注〕寒中コンクリートの場合は、第1編第3章第10節寒中コンクリートの規定による。</p> | 誤謬 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|--|-------|
| 共-5-13 | <p>5 - 7 - 6 ガス圧接</p> <p>5 . 突合わせた圧接面は、なるべく平面とし、周辺のすき間は以下のとおりとする。</p> <p>(1) SD490以外の鉄筋を圧接する場合：すき間3 mm以下</p> <p>(2) SD490の鉄筋を圧接する場合：すき間2 mm以下 但し、SD490以外の鉄筋を自動ガス圧接する場合は、すき間は2 mm以下とする。</p> | <p>5 . 突合わせた圧接面は、なるべく平面とし、周辺のすき間は3 mm以下とするものとする。</p> | 表現の変更 |
| 共-5-19 | <p>5 - 1 3 - 2 材料の貯蔵</p> <p>材料の貯蔵は、第1編5 - 5 - 2材料の貯蔵の規定によるものとする。</p> | <p>材料の貯蔵は、第1編3 - 5 - 2材料の貯蔵の規定によるものとする。</p> | 誤謬 |
| 共-5-21 | <p>5 - 1 4 - 3 施工</p> <p>2 . モルタルの漏出防止</p> <p>請負者は、基礎と型枠との間や型枠の継目などの隙間から、注入モルタルが漏れないように処置しなければならない。</p> | <p>2 . モルタルの漏出防止 請負者は、基礎と型枠との間や型枠の継目などの隙間から、注入モルタルが漏れないように処置しなければならない。</p> | 誤謬 |
| 共-5-22 | <p>7 . 注入モルタルの上昇状況の確認</p> <p>請負者は、注入モルタルの上昇状況を確認するため、注入モルタルの上面の位置を測定できるようにしておかなければならない。</p> | <p>7 . 注入モルタルの上昇状況の確認 請負者は、注入モルタルの上昇状況を確認するため、注入モルタルの上面の位置を測定できるようにしておかなければならない。</p> | 誤謬 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|---------------------------|
| 共-5-22 | <p>8 . 寒中における施工 請負者は、寒中における施工の場合、粗骨材及び注入モルタルの凍結を防ぐ処置をしなければならない。また、注入モルタルの膨張の遅延が起こるのを防ぐため、必要に応じて、適切な保温給熱を行わなければならない。</p> <p>9 . 暑中における施工 請負者は、暑中における施工の場合、注入モルタルの温度上昇、注入モルタルの過早な膨張及び流動性の低下等が起こらないよう施工しなければならない。</p> | <p>8 . 寒中における施工 請負者は、寒中における施工の場合、粗骨材及び注入モルタルの凍結を防ぐ処置をしなければならない。また、注入モルタルの膨張の遅延が起こるのを防ぐため、必要に応じて、適切な保温給熱を行わなければならない。</p> <p>9 . 暑中における施工 請負者は、暑中における施工の場合、注入モルタルの温度上昇、注入モルタルの過早な膨張及び流動性の低下等が起こらないよう施工しなければならない。</p> | <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> |
| 河-1-2 | <p>1 - 4 - 3 笠コンクリート</p> <p>4 . 請負者は、プレキャスト笠コンクリートの運搬にあたっては、部材に損傷や衝撃を与えないようにしなければならない。またワイヤー等で損傷するおそれのある部分は保護しなければならない。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 河-3-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>国土交通省 機械工事共通仕様書（案） 平成17年4月</p> <p>国土交通省 機械工事施工管理基準（案） 平成17年4月</p> | <p>建設省 機械工事共通仕様書（案） 平成11年3月</p> <p>建設省 機械工事施工管理基準（案） 平成11年3月</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|------------------------|
| 河-4-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>国土交通省 機械工事施工管理基準(案) 平成17年4月</p> <p>日本道路協会 道路橋支承便覧 平成16年4月</p> | <p>建設省 機械工事施工管理基準(案) 平成11年3月</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |
| 河-4-3 | <p>4-3-5 落橋防止装置製作工</p> <p>1. 製作加工 P C 鋼材による耐震連結装置の製作加工については、以下の規定によるものとする。</p> | <p>1. 製作加工 P C 鋼材による耐震連結装置の製作加工については、以下の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> |
| 河-4-5 | <p>4-3-8 鑄造費</p> <p>請負者は、橋歴板の材質については、JIS H 2202 (鑄物用銅合金地金) によらなければならない。</p> | <p>請負者は、橋歴板の材質については、JIS G 5501 (ねずみ鑄鉄品) によらなければならない。</p> | <p>表現の変更</p> |
| 河-4-10 | <p>4-7-6 架設工(ケーブルエレクション架設)</p> <p>2.</p> <p>(1) 直吊工法 架設過程において下弦材、補剛桁などを組立てるときは、各部材に無理な応力等が発生しないようにしなければならない。</p> | <p>2.</p> <p>(1) 直吊工法 架設過程において下弦材、補剛桁などを組立てるときは、各部材に無理な応力等が発生しないようにしなければならない。</p> | <p>誤謬</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|-------------------------------|
| 河-4-10 | <p>(2) 斜吊工法 請負者は、斜吊工法については、完成時と架設時の構造系が変わる工法であるため、架設時の部材に応力と変形に伴う悪影響が発生しないようにしなければならない。</p> <p>4 - 7 - 7 架設工（架設桁架設） 3 .</p> <p>(1) 手延機による方法 架設中の各段階において、腹板等の局部座屈を発生させないようにしなければならない。</p> <p>(2) 台船による方法 請負者は、台船の沈下量を考慮する等、橋体の台船への積み換え時に橋体に対して悪影響がないようにしなければならない。</p> | <p>(2) 斜吊工法 請負者は、斜吊工法については、完成時と架設時の構造系が変わる工法であるため、架設時の部材に応力と変形に伴う悪影響が発生しないようにしなければならない。</p> <p>3 .</p> <p>(1) 手延機による方法 架設中の各段階において、腹板等の局部座屈を発生させないようにしなければならない。</p> <p>(2) 台船による方法 請負者は、台船の沈下量を考慮する等、橋体の台船への積み換え時に橋体に対して悪影響がないようにしなければならない。</p> | <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> |
| 河-4-29 | <p>4 - 1 6 - 2 材料 3 . 請負者は、設計図書によりポラスアスファルト混合物の配合設計を行わなければならない。～</p> | <p>3 . 請負者は、設計図書により排水性舗装用混合物の配合設計を行わなければならない。～</p> | <p>表現の変更</p> |
| 河-4-30 | <p>4 - 1 6 - 6 半たわみ性舗装工 4 . ～舗装施工便覧第9章9 - 4 - 1半たわみ性舗装工～</p> | <p>4 . ～舗装施工便覧第8章8 - 3 - 8半たわみ性舗装工～</p> | <p>表現の変更</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|---|--|
| 河-4-30 | <p>～アスファルト舗装工事共通仕様書解説第10章10-3-7施工の規定、舗装再生便覧第2章2-7施工の規定によるものとする。</p> <p>4-16-7 排水性舗装工</p> <p>2. ～舗装施工便覧第7章ポラスアスファルト混合物の施工、第9章9-3-1排水機能を有する舗装の規定、舗装再生便覧2-7施工の規定によるものとする。</p> <p>3. ポラスアスファルト混合物に用いるバインダー（アスファルト）はポリマー改質アスファルトH型とし、表4-10の～</p> | <p>～アスファルト舗装工事共通仕様書・同解説第10章10-3-7施工の規定、プラント再生舗装技術指針の路盤の施工及び基層・表層の施工の規定によるものとする。</p> <p>2. ～舗装施工便覧第8章8-3-6排水性舗装工の規定、プラント再生舗装技術指針の路盤の施工及び基層・表層の施工の規定、排水性舗装技術指針（案）の第5章施工の規定によるものとする。</p> <p>3. 排水性混合物に用いるバインダー（アスファルト）は高粘度改質アスファルトとし、表4-10の～</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|--|--------|----|------|-----|------|--|--|--|---|--------|--|----|---------|---|---|----------|-------|---|-----------|-----|-------|---|------------|-----|---|---|-----------|---|---|---|--------|---|---|--------|-------------|-----|---|--------|----------------|-----|---|--------|----------|---------|--|-------|-----------|---|--|--------|--------------|---|--|-------|-----|---|--|--------|---------|-------------------|--|--------|--------|---|--|--------|---------|---|--|--------|---|------|-------|----------|---------|-------|-----|---|---------|---------|----|-------|-----|---|--------|-----------|---|--------|------------|---|-------|-----------|-----|-------|------------|-----|-------|-------|------|-----------|-------|
| 河-4-30 | <p>表4 - 10 ポリマー改質アスファルトH型の標準的性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>種類</th> <th>H型</th> <th>H型-F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軟化点</td> <td>付加記号</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>℃</td> <td>800 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">伸度</td> <td>(7℃) cm</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(15℃) cm</td> <td>50 以上</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>タフネス(25℃)</td> <td>N・m</td> <td>20 以上</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>テナシティ(25℃)</td> <td>N・m</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>粗骨材の剥離面積率</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>フラス脆化点</td> <td>℃</td> <td>-</td> <td>-12 以下</td> </tr> <tr> <td>曲げ仕事量(-20℃)</td> <td>kPa</td> <td>-</td> <td>400 以上</td> </tr> <tr> <td>曲げスティフネス(-20℃)</td> <td>MPa</td> <td>-</td> <td>100 以下</td> </tr> <tr> <td>針入度(25℃)</td> <td>1/10 mm</td> <td></td> <td>40 以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>%</td> <td></td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の針入度残留率</td> <td>%</td> <td></td> <td>65 以下</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td>℃</td> <td></td> <td>260 以上</td> </tr> <tr> <td>密度(15℃)</td> <td>g/cm³</td> <td></td> <td>試験表に付記</td> </tr> <tr> <td>最適混合温度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>試験表に付記</td> </tr> <tr> <td>最適締固め温度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>試験表に付記</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 種類 | H型 | H型-F | 軟化点 | 付加記号 | | | | ℃ | 800 以上 | | 伸度 | (7℃) cm | - | - | (15℃) cm | 50 以上 | - | タフネス(25℃) | N・m | 20 以上 | - | テナシティ(25℃) | N・m | - | - | 粗骨材の剥離面積率 | % | - | - | フラス脆化点 | ℃ | - | -12 以下 | 曲げ仕事量(-20℃) | kPa | - | 400 以上 | 曲げスティフネス(-20℃) | MPa | - | 100 以下 | 針入度(25℃) | 1/10 mm | | 40 以上 | 薄膜加熱質量変化率 | % | | 0.6 以下 | 薄膜加熱後の針入度残留率 | % | | 65 以下 | 引火点 | ℃ | | 260 以上 | 密度(15℃) | g/cm ³ | | 試験表に付記 | 最適混合温度 | ℃ | | 試験表に付記 | 最適締固め温度 | ℃ | | 試験表に付記 | <p>表4 - 10 高粘度改質アスファルトの標準的性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度(25℃)</td> <td>1/10 mm</td> <td>40 以上</td> </tr> <tr> <td>軟化点</td> <td>℃</td> <td>80.0 以上</td> </tr> <tr> <td>伸度(15℃)</td> <td>cm</td> <td>50 以上</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td>℃</td> <td>260 以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>%</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱針入度残留率</td> <td>%</td> <td>65 以上</td> </tr> <tr> <td>タフネス(25℃)</td> <td>N・m</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>テナシティ(25℃)</td> <td>N・m</td> <td>15 以上</td> </tr> <tr> <td>60℃粘度</td> <td>Pa・s</td> <td>20,000 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1：密度(15℃)は、試験表に付記すること。</p> <p>注2：最適混合温度範囲及び最適締固め温度範囲を試験表に付記すること。</p> | 試験項目 | 標準的性状 | 針入度(25℃) | 1/10 mm | 40 以上 | 軟化点 | ℃ | 80.0 以上 | 伸度(15℃) | cm | 50 以上 | 引火点 | ℃ | 260 以上 | 薄膜加熱質量変化率 | % | 0.6 以下 | 薄膜加熱針入度残留率 | % | 65 以上 | タフネス(25℃) | N・m | 20 以上 | テナシティ(25℃) | N・m | 15 以上 | 60℃粘度 | Pa・s | 20,000 以上 | 表現の変更 |
| 項目 | 種類 | H型 | H型-F | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟化点 | 付加記号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ℃ | 800 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伸度 | (7℃) cm | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (15℃) cm | 50 以上 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タフネス(25℃) | N・m | 20 以上 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テナシティ(25℃) | N・m | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粗骨材の剥離面積率 | % | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フラス脆化点 | ℃ | - | -12 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 曲げ仕事量(-20℃) | kPa | - | 400 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 曲げスティフネス(-20℃) | MPa | - | 100 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 針入度(25℃) | 1/10 mm | | 40 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱質量変化率 | % | | 0.6 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱後の針入度残留率 | % | | 65 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引火点 | ℃ | | 260 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 密度(15℃) | g/cm ³ | | 試験表に付記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最適混合温度 | ℃ | | 試験表に付記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最適締固め温度 | ℃ | | 試験表に付記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試験項目 | 標準的性状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 針入度(25℃) | 1/10 mm | 40 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟化点 | ℃ | 80.0 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伸度(15℃) | cm | 50 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引火点 | ℃ | 260 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱質量変化率 | % | 0.6 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱針入度残留率 | % | 65 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タフネス(25℃) | N・m | 20 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テナシティ(25℃) | N・m | 15 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60℃粘度 | Pa・s | 20,000 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河-4-31 | <p>5. ポーラスアスファルト混合物の配合は表4 - 12を標準とし、表4 - 13に示す目標値を満足するように決定する。</p> <p>なお、ポーラスアスファルト混合物の配合設計は、舗装設計施工指針、舗装施工便覧に従い最適アスファルト量を設定後、密度試験、マーシャル安定度試験～</p> | <p>5. 排水性舗装用混合物の配合は表4 - 12を標準とし、表4 - 13に示す目標値を満足するように決定する。</p> <p>なお、排水性混合物の配合設計は、排水性舗装技術指針(案)による。排水性舗装技術指針(案)第4章4 - 3室内設計アスファルト量の設定に従い最適アスファルト量を設定後、マーシャル安定度試験～</p> | 表現の変更 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|---|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|---|--------------|---------|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|-------|
| 河-4-31 | <p>表 4 - 12 ポーラスアスファルト混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="367 312 956 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5 mm</td> <td>—</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 4 - 13 ポーラスアスファルト混合物の目標値</p> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.5 mm | — | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | <p>表 4 - 12 排水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="1211 312 1800 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.2 mm</td> <td>—</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 4 - 13 排水性混合物の目標値</p> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.2 mm | — | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | 表現の変更 |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.5 mm | — | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.2 mm | — | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河-4-32 | <p>7 .</p> <p>(3) 排水性舗装の継目の施工にあたっては、継目をよく清掃した後、加温を行い、敷均したポーラスアスファルト混合物を締固め、相互に密着させるものとする。また、摺り付け部の施工にあたっては、ポーラスアスファルト混合物が～</p> <p>4 - 1 6 - 8 透水性舗装工</p> <p>1 . 透水性舗装工の施工については、舗装施工便覧第 7 章のポーラスアスファルト舗装工、第 1 編 3 - 6 - 5 ～</p> <p>2 . ポーラスアスファルト 混合物の配合は表 4 - 1 4 を～</p> <p>なお、ポーラスアスファルト 混合物の配合設計は、舗装設計施工指針、舗装施工便覧に従い最適アスファルト量を設定後、密度試験、マーシャル安定度試験～</p> | <p>7 .</p> <p>(3) 排水性舗装の継目の施工にあたっては、継目をよく清掃した後、加温を行い、敷均した排水性混合物を締固め、相互に密着させるものとする。また、摺り付け部の施工にあたっては、排水性混合物が～</p> <p>1 . 透水性舗装工の施工については、舗装施工便覧第 8 章の 8 - 3 - 7 透水性舗装、第 1 編 3 - 6 - 5 ～</p> <p>2 . 透水性舗装用混合物の配合は表 4 - 1 4 を～</p> <p>なお、透水性混合物の配合設計は、排水性舗装技術指針（案）による。排水性舗装技術指針（案）第 4 章 4 - 3 室内設計アスファルト量の設定に従い最適アスファルト量を設定後、マーシャル安定度試験～</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--------------|---------|-------|--------------------|----------|---------|-----------|-------------------------|----------|-----------|-----------------|---------|-----------|-------------------------|---------|-----------|---------------|---------|-----------|---------------------------|-------|-----------|-------------------------------|---------|-----------|---|---|--------------|---------|--------|----------|----------|-----------|-------------------------|----------|-----------|-----------------|--------|-----------|-------------------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|---------------------------|-------|-----------|-------------------------------|------|-----------|---|--|-------|
| 河-4-32 | <p>表 4 - 14 ポーラスアスファルト混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="367 312 956 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.5 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | <p>表 4 - 14 透水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="1211 312 1800 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.2 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.2 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | 表現の変更 |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.5 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.2 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河-4-33 | <p>表 4 - 15 ポーラスアスファルト混合物の目標値</p> <p>4 - 16 - 9 グースアスファルト舗装工</p> <p>5 . グースアスファルト舗装工の施工については、舗装施工便覧第 9 章 9 - 4 - 2 グースアスファルト～</p> <p>6 .</p> <p>(1) 請負者は、接着剤にゴムアスファルト系接着剤の～</p> <p>表 4 - 16 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1" data-bbox="360 1086 1010 1361"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th>規 格 値</th> <th rowspan="2">試 験 法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分(%)</td> <td>50 以上</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>指 触 乾 燥 時 間 (分)</td> <td>90 以下</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合 格</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K4001</td> </tr> <tr> <td>耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5664</td> </tr> <tr> <td>塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5400</td> </tr> </tbody> </table> | 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | ゴム アスファルト 系 | 不揮発分(%) | 50 以上 | JIS K6833 | 粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K6833 | 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | 低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | <p>表 4 - 15 透水性混合物の目標値</p> <p>5 . グースアスファルト舗装工の施工については、舗装施工便覧第 8 章 8 - 3 - 9 グースアスファルト～</p> <p>6 .</p> <p>(1) 請負者は、接着剤に瀝青・ゴム系接着剤の～</p> <p>表 4 - 16 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1" data-bbox="1211 1086 1861 1361"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th>規 格 値</th> <th rowspan="2">試 験 法</th> </tr> <tr> <th>瀝青・ゴム系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不揮発分(%)</td> <td>50 以上</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>指 触 乾 燥 時 間 (分)</td> <td>90 以下</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm)</td> <td>合 格</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K4001</td> </tr> <tr> <td>耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5664</td> </tr> <tr> <td>塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5400</td> </tr> </tbody> </table> | 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | 瀝青・ゴム系 | 不揮発分(%) | 50 以上 | JIS K6833 | 粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K6833 | 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | 低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> | | |
| 項 目 | 規 格 値 | | 試 験 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ゴム アスファルト 系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不揮発分(%) | 50 以上 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 瀝青・ゴム系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不揮発分(%) | 50 以上 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘 度 (25℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低 温 風 曲 試 験 (-10℃, 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|--------------------|
| 河-4-34 | (3) 請負者は、火気を厳禁し、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、0.3~0.4 L/m ² の割合で塗布しなければならない。塗布は、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、0.15~0.2L/m ² の割合で一層を塗布し、その層を約3時間乾燥させた後、一層目の上に同じ要領によって二層目を塗布しなければならない。 | (3) 請負者は、火気を厳禁し、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、0.2L/m ² の割合でむらのないように一様に接着剤を塗布しなければならない。この層を約3時間乾燥させた後、再びその上に同じ要領によって0.2L/m ² の割合で塗布しなければならない。 | 表現の変更 |
| 河-5-6 | 5 - 3 - 1 1 鋳造費 請負者は、橋歴板の材質については、JIS H 2202 (鋳物用銅合金地金) によらなければならない。 | 請負者は、橋歴板の材質については、JIS G 5501 (ねずみ鋳鉄品) によらなければならない。 | 表現の変更 |
| 河-5-14 | 5 - 1 3 - 8 架設工 (架設桁架設) 桁架設については、第2編4 - 7 - 7 架設工 (架設桁架設) の規定によるものとする。 | 桁架設については、第2編4 - 12 - 7 架設工 (架設桁架設) の規定によるものとする。 | 誤謬 |
| 河-5-15 | 5 - 1 5 - 4 PC箱桁製作工 3 . PC固定・PC継手の施工については、第2編4 - 13 - 5 PCホロースラブ製作工の規定によるものとする。 | 3 . PC固定・PC継手の施工については、第6編4 - 13 - 5 PCホロースラブ製作工の規定によるものとする。 | 誤謬 |
| 河-6-1 | 第2節 適用すべき諸基準 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備技術基準(案)同解説 平成13年 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備設計指針(案)同解説 平成13年 | 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備技術基準(案)同解説 平成8年3月 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備設計指針(案)同解説 平成8年3月 | 表現の変更 表現の変更 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|--|----------------------------------|-------|---------|--------|----|------------------------------|------|-----------------------|-----|---------------|-------|----------------------------------|-----|--------------|------|----|-----|-----------------|-----|----|-------|
| 河-8-9 | 8 - 1 2 - 3 樹木・芝生管理工 9 . ~ 指示 により修復しなければならない。 ただし、修復に関しては、請負者の負担で行わなければならない。 | 9 . ~ 指示 により修復しなければならない。 | 追記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河-9-1 | 第2節 適用すべき諸基準 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備技術基準(案)同解説 平成 13 年 | 河川ポンプ施設技術協会 揚排水ポンプ設備技術基準(案)同解説 平成8年3月 | 表現の変更 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河-9-4 | 9 - 7 - 3 付属物塗装工 削除 | 1 . (1) 2、3、4種ケレン さびが発生している場合 表9 - 1 <table border="1" data-bbox="1126 943 1910 1195"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さびの状態</th> <th>発錆面積(%)</th> <th>素地調整内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2種</td> <td>点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。</td> <td>30以上</td> <td>旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。</td> </tr> <tr> <td>3種A</td> <td>点錆がかなり点在している。</td> <td>15~30</td> <td>活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。</td> </tr> <tr> <td>3種B</td> <td>点錆が少し点在している。</td> <td>5~15</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種C</td> <td>点錆がほんの少し点在している。</td> <td>5以下</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> | 素地調整種別 | さびの状態 | 発錆面積(%) | 素地調整内容 | 2種 | 点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。 | 30以上 | 旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。 | 3種A | 点錆がかなり点在している。 | 15~30 | 活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。 | 3種B | 点錆が少し点在している。 | 5~15 | 同上 | 3種C | 点錆がほんの少し点在している。 | 5以下 | 同上 | 表現の変更 |
| 素地調整種別 | さびの状態 | 発錆面積(%) | 素地調整内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2種 | 点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。 | 30以上 | 旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種A | 点錆がかなり点在している。 | 15~30 | 活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種B | 点錆が少し点在している。 | 5~15 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 点錆がほんの少し点在している。 | 5以下 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------|---|--|------|------|----|---|---|-------------------------|-------|----|-------|---|---|--|-----|--------|-------|----------------------------------|----|-----|-------|--------|----|----|-----|------|-------|----|----|----|---|------|----------------|----|---|--------|-------|-----------|--------|-----|-------------------------------|-----|------------------|----|---|-----|-----------------------|-------------------------------------|
| 河-9-4 河-9-5 | <p>削除</p> <p style="text-align: center;">表 9 - 1 素地調整程度と作業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さび面積</th> <th>塗膜異常面積</th> <th>作業内容</th> <th>作業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1種</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。</td> <td>ブラスト法</td> </tr> <tr> <td>2種</td> <td>30%以上</td> <td>-</td> <td>旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗装系の場合はジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。</td> <td>ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法</td> </tr> <tr> <td>3種A</td> <td>15~30%</td> <td>30%以上</td> <td>活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種B</td> <td>5~15%</td> <td>15~30%</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種C</td> <td>5%以下</td> <td>5~15%</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>4種</td> <td>-</td> <td>5%以下</td> <td>粉化物、汚れなどを除去する。</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 請負者は、海岸地域に架設または保管されていた場合、海上輸送を行った場合、その他臨海地域を長距離輸送した場合など部材に塩分付着の疑いがある場合には、塩分付着量の測定を行いNaCl 50mg/m²以上の時は水洗いするものとする。</p> | 素地調整種別 | さび面積 | 塗膜異常面積 | 作業内容 | 作業方法 | 1種 | - | - | さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。 | ブラスト法 | 2種 | 30%以上 | - | 旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗装系の場合はジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。 | ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法 | 3種A | 15~30% | 30%以上 | 活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。 | 同上 | 3種B | 5~15% | 15~30% | 同上 | 同上 | 3種C | 5%以下 | 5~15% | 同上 | 同上 | 4種 | - | 5%以下 | 粉化物、汚れなどを除去する。 | 同上 | <p>さびがなくわれ・ふくれ・はがれ・白亜化・変退色などの塗膜異常がある場合。</p> <p style="text-align: center;">表 9 - 2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さびの状態</th> <th>塗膜異常面積(%)</th> <th>素地調整内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3種C</td> <td>発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。</td> <td>5以上</td> <td>活膜は残すが、不良部は除去する。</td> </tr> <tr> <td>4種</td> <td>発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。</td> <td>5以下</td> <td>同上。 粉化物・汚れなどを除去する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>原文なし</p> | 素地調整種別 | さびの状態 | 塗膜異常面積(%) | 素地調整内容 | 3種C | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。 | 5以上 | 活膜は残すが、不良部は除去する。 | 4種 | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。 | 5以下 | 同上。 粉化物・汚れなどを除去する。 | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> <p>表現の変更</p> |
| 素地調整種別 | さび面積 | 塗膜異常面積 | 作業内容 | 作業方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1種 | - | - | さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。 | ブラスト法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2種 | 30%以上 | - | 旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗装系の場合はジンクプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。 | ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種A | 15~30% | 30%以上 | 活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種B | 5~15% | 15~30% | 同上 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 5%以下 | 5~15% | 同上 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4種 | - | 5%以下 | 粉化物、汚れなどを除去する。 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 素地調整種別 | さびの状態 | 塗膜異常面積(%) | 素地調整内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。 | 5以上 | 活膜は残すが、不良部は除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4種 | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。 | 5以下 | 同上。 粉化物・汚れなどを除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|--|--|--|
| 河-9-5 | <p>3 . 素地調整程度 1 種の施工について～</p> <p>4 . 請負者は、素地調整程度 1 種以外の～</p> <p>5 . 素地調整程度 1 種を行った場合～</p> | <p>3 . 第 1 種素地調整の施工について～</p> <p>4 . 請負者は、第 1 種以外の～</p> <p>5 . 第 1 種素地調整を行った場合～</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 海-1-3 | <p>1 - 3 - 5 場所打コンクリート</p> <p>8 . 請負者は、場所打コンクリートの施工にあたっては、第 1 編第 5 章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 海-1-4 | <p>1 - 3 - 7 笠コンクリート工</p> <p>4 . プレキャスト笠コンクリートの施工については、第 1 編 3 - 5 - 3 コンクリートブロック工の規定によるものとする。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 海-1-5 | <p>1 - 4 - 2 材料</p> <p>8 . 請負者は、アスファルトマット、合成繊維マットの目地処理は重ね合わせとし、重ね合わせ幅は50cm以上としなければならない。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 海-1-6 | <p>1 - 5 - 3 場所打擁壁工</p> <p>4 . 場所打擁壁工の施工については、第 1 編第 5 章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|---|-------|
| 海-1-10 | 1 - 1 0 - 6 場所打水路工 6 . 場所打水路工の施工にあたっては、第 1 編第 5 章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。 | 原文なし | 追記 |
| 海-2-1 | 第 2 節 適用すべき諸基準 農林水産省、国土交通省 海岸保全施設の技術上の基準について 平成16年 4 月 | 農林水産省、水産庁、運輸省、建設省 海岸保全施設築造基準 昭和63年 3 月 | 表現の変更 |
| 海-2-2 | 2 - 4 - 1 一般事項 2 . 請負者は、突堤本体のコンクリート施工にあたっては、第 1 編 5 章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。 | 2 . 請負者は、突堤本体のコンクリート施工にあたっては、原則として水中打込みを行ってはならない。 | 表現の変更 |
| 海-2-4 | 2 - 4 - 1 0 場所打コンクリート工 場所打コンクリート工の施工については、第 1 編 5 章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。 | 場所打コンクリート工の施工については、第 3 編 1 - 3 - 5 場所打コンクリート工の規定によるものとする。 | 表現の変更 |
| 海-3-1 | 第 2 節 適用すべき諸基準 農林水産省、国土交通省 海岸保全施設の技術上の基準について 平成16年 4 月 | 農林水産省、水産庁、運輸省、建設省 海岸保全施設築造基準 昭和63年 3 月 | 表現の変更 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|---------------------------------|
| 海-3-2 | <p>3 - 4 - 6 場所打コンクリート工 場所打コンクリート工の施工については、第1編5章無筋、鉄筋コンクリートの規定によるものとする。</p> | <p>場所打コンクリート工の施工については、第3編1 - 3 - 5 場所打コンクリート工の規定によるものとする。</p> | 表現の変更 |
| 砂-1-10 | <p>1 - 7 - 10 現場塗装工 5 . (1) 素地調整程度 1 種については、第 1 編 ~ 6 . 請負者は、素地調整にあつては素地調整程度 3 種を行わなければならない。 9 . 請負者は、海岸地域に架設または保管されていた場合、海上輸送を行った場合、その他臨海地域を長距離輸送した場合など部材に塩分付着の疑いがある場合には、塩分付着量の測定を行いNaCl 50mg/m²以上の時は水洗いするものとする。</p> | <p>5 . (1) 1 種ケレンについては、第 1 編 ~ 6 . 請負者は、素地調整にあつては第 3 種ケレンを行わなければならない。 9 . 請負者は、海上輸送部材・海岸部に組立された部材及び塩分付着の疑いがある場合は、塩分測定を行わなければならない。塩分付着量の測定結果がNaCl 100mg/m²以上となった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。</p> | 表現の変更 表現の変更 表現の変更 |
| 砂-3-1 | <p>第 2 節 適用すべき諸基準 全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 平成18年11月 土木研究センター 補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 平成15年11月 P C フレーム協会 P C フレームアンカー工法設計・施工の手引き 平成17年 7 月</p> | <p>全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針 平成15年 3 月 土木研究センター 補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 平成11年12月 P C フレーム協会 P C フレームアンカー工法設計・施工の手引き 平成 6 年 7 月</p> | 表現の変更 表現の変更 表現の変更 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|--|--|--------------------------------------|
| 砂-3-1 | 地すべり対策技術協会 地すべり鋼管杭設計要領 平成15年6月 | 地すべり対策技術協会 地すべり鋼管杭設計要領 昭和63年8月 | 表現の変更 |
| ダ-1-6 | 1-4-9 コンクリートの打込み 6. (1) 旧コンクリートが0.75m以上～1.0m未満のリフトの場合は材令3日、1.0m以上～1.5m未満のリフトの場合は材令4日、1.5m以上～2.0m未満のリフトの場合は材令5日に達した後にコンクリートを打継ぐものとする。 | 6. (1) 旧コンクリートが0.75m～1.0mのリフトの場合は材令3日、1.5m～2.0mのリフトの場合は材令5日に達した後にコンクリートを打継ぐものとする。 | 表現の変更 |
| 道-1-1 | 第2節 適用すべき諸基準 削除 削除 削除 土木研究センター 補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 平成15年11月 | 全日本建設技術協会 土木構造物標準設計 第1巻 平成12年9月 建設省 道路遮音壁設置基準 昭和49年10月 日本道路協会 鋼道路橋塗装便覧 平成6年2月 土木研究センター 補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 平成11年12月 | 表現の変更 表現の変更 表現の変更 表現の変更 |
| 道-1-2 | 土木研究センター 多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル 平成14年10月 日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(除雪編) 平成16年12月 日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(防雪編) 平成16年12月 | 土木研究センター 多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル 平成10年11月 原文なし 原文なし | 表現の変更 追記 追記 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|------|----|
| 道-1-10 | <p>1 - 9 - 6 防雪柵工</p> <p>1. 請負者は、防雪柵のアンカー及び支柱基礎の施工については、周辺の地盤をゆるめることなく、かつ、滑動しないよう固定しなければならない。</p> <p>2. 請負者は、吹溜式防雪柵及び吹払式防雪柵（仮設式）の施工については、控ワイヤーロープは支柱及びアンカーと連結し、固定しなければならない。</p> <p>3. 請負者は、吹払式防雪柵（固定式）の施工については、コンクリート基礎と支柱及び控柱は転倒しないよう固定しなければならない。</p> <p>4. 請負者は、雪崩予防柵のバーの設置にあたっては、バー間隙から雪が抜け落ちないようにバーを設置しなければならない。</p> | 原文なし | 追記 |
| | <p>1 - 9 - 7 雪崩予防柵工</p> <p>1. 請負者は、雪崩予防柵の固定アンカー及びコンクリート基礎の施工については、周辺の地盤をゆるめることなく、かつ、滑動しないよう固定しなければならない。</p> <p>2. 請負者は、雪崩予防柵とコンクリート基礎との固定は、雪崩による衝撃に耐えるように堅固にしなければならない。</p> | 原文なし | 追記 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|---|
| 道-1-10 | <p>3. 請負者は、雪崩防止柵と固定アンカーとをワイヤーで連結を行う場合は、雪崩による変形を生じないように緊張し施工しなければならない。</p> <p>4. 請負者は、雪崩防止柵のバーの設置にあたっては、バーの間隙から雪が抜け落ちないようにバーを設置しなければならない。</p> | | |
| 道-2-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>削除</p> <p>建設省 防護柵の設置基準の改訂について 平成10年11月</p> <p>削除</p> <p>日本道路協会 舗装設計便覧 平成18年2月</p> | <p>日本道路協会 簡易舗装要綱 昭和54年10月</p> <p>原文なし</p> <p>日本道路協会 アスファルト混合所便覧(平成8年度版) 平成8年10月</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |
| 道-2-3 | <p>2-3-6 半たわみ性舗装工</p> <p>4. 請負者は、半たわみ性舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第9章9-4-1半たわみ性舗装工の規定、舗装施工便覧第5章及び第6章構築路床・路盤の施工及びアスファルト・表層の施工の規定、アスファルト舗装工事共通仕様書・同解説第10章10-3-7施工の規定、施工舗装再生便覧第2章2-7施工の規定、本編2-3-6半たわみ性舗装工及び第1編3-6-5アスファルト舗装工の規定によらなければならない。</p> | <p>4. 請負者は、半たわみ性舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第8章8-3-8半たわみ性舗装工の規定、舗装施工便覧第5章及び第6章路盤の施工及び表層の施工の規定、アスファルト舗装工事共通仕様書・同解説第10章10-3-7施工の規定、プラント再生舗装技術指針の路盤の施工及び基層・表層の施工の規定、本編2-3-6半たわみ性舗装工及び第1編3-6-5アスファルト舗装工の規定によらなければならない。</p> | <p>表現の変更</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|---------------------------|-------|-----------|---------|-------|-----|---|---------|----------|----|-------|-----|---|--------|----------|---|--------|------------|---|-------|------------|-----|-------|-------------|-----|-------|-------|------|-----------|---------------------------|
| 道-2-3 | <p>2 - 3 - 7 排水性舗装工</p> <p>2 . 請負者は、排水性舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第7章ポラスアスファルト混合物の施工、第9章9 - 3 - 1排水機能を有する舗装の規定、舗装再生便覧2 - 7施工の規定によるものとする。</p> <p>3 . ポラスアスファルト混合物に用いるバインダー（アスファルト）はポリマー改質アスファルトH型とし、第2編4 - 16 - 7表4 - 10の標準的性状を満足するものでなければならない。</p> | <p>2 . 請負者は、排水性舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第8章8 - 3 - 6排水性舗装工の規定、プラント再生舗装技術指針の路盤の施工及び基層・表層の施工の規定、排水性舗装技術指針（案）の第5章施工の規定によらなければならない。</p> <p>3 . 排水性混合物に用いるバインダー（アスファルト）は高粘度改質アスファルトとし、表2 - 1の標準的性状を満足するものでなければならない。</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-2-4 | <p>削除</p> <p>5 . ポラスアスファルト混合物の配合は～</p> <p>なお、ポラスアスファルト混合物の配合設計は、舗装設計施工指針、舗装施工便覧に従い最適アスファルト量を設定後、密度試験、マーシャル安定度試験～</p> | <p>表2 - 1 高粘度改質アスファルトの標準的性状</p> <table border="1" data-bbox="1167 798 1872 1093"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>針入度 (25℃)</td> <td>1/10 mm</td> <td>40 以上</td> </tr> <tr> <td>軟化点</td> <td>℃</td> <td>80.0 以上</td> </tr> <tr> <td>伸度 (15℃)</td> <td>cm</td> <td>50 以上</td> </tr> <tr> <td>引火点</td> <td>℃</td> <td>260 以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱量変化率</td> <td>%</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱針入度残留率</td> <td>%</td> <td>65 以上</td> </tr> <tr> <td>タフネス (25℃)</td> <td>N・m</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>テナシティ (25℃)</td> <td>N・m</td> <td>15 以上</td> </tr> <tr> <td>60℃粘度</td> <td>Pa・s</td> <td>20,000 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1：密度（15℃）は、試験表に付記すること。</p> <p>注2：最適混合温度範囲及び最適締固め温度範囲を試験表に付記すること。</p> <p>5 . 排水性舗装用混合物の配合は～</p> <p>なお、排水性混合物の配合設計は、排水性舗装技術指針（案）による。排水性舗装技術指針（案）第4章4 - 3室内設計アスファルト量の設定に従い最適アスファルト量を設定後、マーシャル安定度試験～</p> | 試験項目 | 標準的性状 | 針入度 (25℃) | 1/10 mm | 40 以上 | 軟化点 | ℃ | 80.0 以上 | 伸度 (15℃) | cm | 50 以上 | 引火点 | ℃ | 260 以上 | 薄膜加熱量変化率 | % | 0.6 以下 | 薄膜加熱針入度残留率 | % | 65 以上 | タフネス (25℃) | N・m | 20 以上 | テナシティ (25℃) | N・m | 15 以上 | 60℃粘度 | Pa・s | 20,000 以上 | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 試験項目 | 標準的性状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 針入度 (25℃) | 1/10 mm | 40 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟化点 | ℃ | 80.0 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伸度 (15℃) | cm | 50 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引火点 | ℃ | 260 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱量変化率 | % | 0.6 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薄膜加熱針入度残留率 | % | 65 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タフネス (25℃) | N・m | 20 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テナシティ (25℃) | N・m | 15 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60℃粘度 | Pa・s | 20,000 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|--------------------|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|--|--------------|---------|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|-------|
| 道-2-5 | <p>表 2 - 3 排水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="371 312 958 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 . 混合時間は骨材にアスファルトの被覆が充分に行われ均一に混合できる時間とする。ポーラスアスファルト混合物は～</p> <p>7 . (3) ～施工にあたっては、ポーラスアスファルト混合物が飛散しないよう入念に行わなければならない。</p> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.5 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | <p>表 2 - 3 排水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="1211 312 1798 560"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.2 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90~100</td> <td>64~84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11~35</td> <td>10~31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10~20</td> <td>10~20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3~7</td> <td>3~7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4~6</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 . 混合時間は骨材にアスファルトの被覆が充分に行われ均一に混合できる時間とする。排水性混合物は～</p> <p>7 . (3) ～施工にあたっては、排水性混合物が飛散しないよう入念に行わなければならない。</p> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.2 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95~100 | 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | 75 μm | 3~7 | 3~7 | アスファルト量 | 4~6 | | 表現の変更 |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.5 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.2 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95~100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90~100 | 64~84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11~35 | 10~31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10~20 | 10~20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3~7 | 3~7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4~6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-2-6 | <p>2 - 3 - 8 透水性舗装工</p> <p>1 . 透水性舗装工の施工については、舗装施工便覧第7章ポーラスアスファルト舗装工、第9章9 - 3 - 2透水機能を有する舗装、第1編3 - 6 - 5アスファルト舗装工の規定によるものとする。</p> <p>2 . ポーラスアスファルト混合物の配合は～</p> | <p>1 . 透水性舗装工の施工については、舗装施工便覧第9章の9 - 3 - 2透水性舗装第1編3 - 6 - 5アスファルト舗装工の規定によるものとする。</p> <p>2 . 透水性舗装用混合物の配合は～</p> | 表現の変更 表現の変更 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|--|---------------------------|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|--|--------------|---------|--|----------|----------|---------|---|-----|---------|-----|--------|---------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|--|---------------------------|
| 道-2-6 | <p>なお、ポーラスアスファルト混合物の配合設計は、舗装設計施工指針、舗装施工便覧に従い最適アスファルト量を設定後、密度試験、マーシャル安定度試験～</p> <p>表 2 - 5 透水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="371 507 958 754"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95～100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90～100</td> <td>64～84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11～35</td> <td>10～31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10～20</td> <td>10～20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3～7</td> <td>3～7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4～6</td> </tr> </tbody> </table> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.5 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95～100 | 13.2 mm | 90～100 | 64～84 | 4.75 mm | 11～35 | 10～31 | 2.36 mm | 10～20 | 10～20 | 75 μm | 3～7 | 3～7 | アスファルト量 | 4～6 | | <p>なお、透水性混合物の配合設計は、排水性舗装技術指針(案)による。排水性舗装技術指針(案)第4章4-3室内設計アスファルト量の設定に従い最適アスファルト量を設定後、マーシャル安定度試験～</p> <p>表 2 - 5 透水性混合物の標準的な粒度範囲</p> <table border="1" data-bbox="1216 507 1803 754"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるい目 呼び寸法</th> <th colspan="2">粒 度 範 囲</th> </tr> <tr> <th>最大粒径(13)</th> <th>最大粒径(20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.2 mm</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> <td>95～100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>90～100</td> <td>64～84</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>11～35</td> <td>10～31</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>10～20</td> <td>10～20</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>3～7</td> <td>3～7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量</td> <td colspan="2">4～6</td> </tr> </tbody> </table> | ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | 26.2 mm | - | 100 | 19.0 mm | 100 | 95～100 | 13.2 mm | 90～100 | 64～84 | 4.75 mm | 11～35 | 10～31 | 2.36 mm | 10～20 | 10～20 | 75 μm | 3～7 | 3～7 | アスファルト量 | 4～6 | | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.5 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95～100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90～100 | 64～84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11～35 | 10～31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10～20 | 10～20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3～7 | 3～7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4～6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふるい目 呼び寸法 | 粒 度 範 囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大粒径(13) | 最大粒径(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26.2 mm | - | 100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19.0 mm | 100 | 95～100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13.2 mm | 90～100 | 64～84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.75 mm | 11～35 | 10～31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.36 mm | 10～20 | 10～20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75 μm | 3～7 | 3～7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト量 | 4～6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-2-7 | <p>2 - 3 - 9 グースアスファルト舗装工</p> <p>5 . 請負者は、グースアスファルト舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第9章9 - 4 - 2グースアスファルト舗装の規定によらなければならない。</p> <p>6 .</p> <p>(1) 請負者は、接着剤にゴムアスファルト系接着剤の溶剤型を使用しなければならない。</p> | <p>5 . 請負者は、グースアスファルト舗装工の施工にあたっては、舗装施工便覧第8章8 - 3 - 9グースアスファルト舗装の規定によらなければならない。</p> <p>6 .</p> <p>(1) 請負者は、接着剤に瀝青・ゴム系接着剤の溶剤型を使用しなければならない。</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--|---------------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|----------------------------------|--------------|-----------|-------------------|-------|-----------|-----------------------------|-----|-----------|-----------------|----|-----------|-----------------------------|------|-----------|---------------------------------|------|-----------|--|-----|-------|-------|--------|---------------|-------|-----------|----------------------------------|--------------|-----------|-------------------|-------|-----------|-----------------------------|-----|-----------|-----------------|----|-----------|-----------------------------|------|-----------|---------------------------------|------|-----------|-------|
| 道-2-7 | <p style="text-align: center;">表 2 - 7 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th>規 格 値</th> <th rowspan="2">試 験 法</th> </tr> <tr> <th>ゴムアスファルト系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不 揮 発 分 (%)</td> <td>50 以上</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)]</td> <td>5 (0.5) 以下</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>指 触 乾 燥 時 間 (分)</td> <td>90 以下</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm)</td> <td>合 格</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K4001</td> </tr> <tr> <td>耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5664</td> </tr> <tr> <td>塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5400</td> </tr> </tbody> </table> | 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | ゴムアスファルト系 | 不 揮 発 分 (%) | 50 以上 | JIS K6833 | 粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)] | 5 (0.5) 以下 | JIS K6833 | 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | 低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | <p style="text-align: center;">表 2 - 7 接着剤の規格鋼床版用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th>規 格 値</th> <th rowspan="2">試 験 法</th> </tr> <tr> <th>遅音・ゴム系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不 揮 発 分 (%)</td> <td>50 以上</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)]</td> <td>5 (0.5) 以下</td> <td>JIS K6833</td> </tr> <tr> <td>指 触 乾 燥 時 間 (分)</td> <td>90 以下</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm)</td> <td>合 格</td> <td>JIS K5400</td> </tr> <tr> <td>基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K4001</td> </tr> <tr> <td>耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5664</td> </tr> <tr> <td>塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点)</td> <td>8 以上</td> <td>JIS K5400</td> </tr> </tbody> </table> | 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | 遅音・ゴム系 | 不 揮 発 分 (%) | 50 以上 | JIS K6833 | 粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)] | 5 (0.5) 以下 | JIS K6833 | 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | 低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | 表現の変更 |
| 項 目 | 規 格 値 | | 試 験 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ゴムアスファルト系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不 揮 発 分 (%) | 50 以上 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)] | 5 (0.5) 以下 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項 目 | 規 格 値 | 試 験 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 遅音・ゴム系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不 揮 発 分 (%) | 50 以上 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘 度 (25℃) [Poise (Pa · s)] | 5 (0.5) 以下 | JIS K6833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 触 乾 燥 時 間 (分) | 90 以下 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低 温 風 曲 試 験 (- 10℃ , 3mm) | 合 格 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基 盤 目 試 験 (点) | 10 | JIS K4001 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐 湿 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5664 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩 水 暴 露 試 験 後 の 基 盤 目 試 験 (点) | 8 以上 | JIS K5400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-2-8 | <p>(3) 請負者は、火気を厳禁し、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、0.3～0.4 L/m²の割合で塗布しなければならない。塗布は、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、0.15～0.2L/m²の割合で一層を塗布し、その層を約3時間乾燥させた後、一層目の上に同じ要領によって二層目を塗布しなければならない。</p> | <p>(3) 請負者は、火気を厳禁し、鋼床版面にハケ・ローラーバケ等を用いて、まず、0.2L/m²の割合でむらのないように一様に接着剤を塗布しなければならない。この層を約3時間乾燥させた後、再びその上に同じ要領によって0.2L/m²の割合で塗布しなければならない。</p> | 表現の変更 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-3-1 | <p>第1節 適用</p> <p>5 . コンクリート構造物非破壊試験（配筋状態及びかぶり測定）については、次によるものとする。</p> <p>(1) 請負者は、設計図書において非破壊試験の対象工事と明示された場合は、非破壊試験により、配筋状態及びかぶり測定を実施しなければならない。</p> | <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>追記</p> <p>追記</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|---|--|-------|
| 道-3-1 | (2) 非破壊試験は、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)(以下、「要領(案)」という。)」に従い行うものとし、試験結果の判定は要領(案)中の「非破壊試験による測定結果の判定手順」によるものとする。 | 原文なし | 追記 |
| | (3) 本試験に関する資料を整備・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに検査時に提出しなければならない。 | 原文なし | 追記 |
| | (4) 要領(案)により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。 | 原文なし | 追記 |
| | 第2節 適用すべき諸基準 | | |
| | 削除 | 日本道路協会 道路橋示方書・同解説(共通編 コンクリート橋編) 平成14年3月 | 表現の変更 |
| | 削除 | 日本道路協会 鋼道路橋塗装便覧 平成6年2月 | 表現の変更 |
| | 日本道路協会 杭基礎施工便覧 平成19年1月 | 日本道路協会 杭基礎施工便覧 平成4年10月 | 表現の変更 |
| 道-4-1 | 第2節 適用すべき諸基準 削除 | 日本道路協会 鋼道路橋塗装便覧 平成6年2月 | 表現の変更 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|---------------------------|
| 道-4-3 | <p>4 - 3 - 2 材料</p> <p>6 . CO₂ガスシールドアーク溶接に用いるCO₂ガスは、できるだけ水分の少ないJIS K 1106（液化二酸化炭素（液化炭酸ガス））に規定された3種のものを使用しなければならない。</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 道-4-13 | <p>4 - 5 - 3 現場塗装工</p> <p>5 . 請負者は、現場塗装の前にジンクリッチペイントの白さび及び付着した油脂類は除去しなければならない。</p> <p>8 . 請負者は、海岸地域に架設または保管されていた場合、海上輸送を行った場合、その他臨海地域を長距離輸送した場合など部材に塩分付着の疑いがある場合は、塩分付着量の測定を行いNaCl 50mg/m²以上の時は水洗いするものとする。</p> | <p>5 . 請負者は、被塗物の表面を塗装に先立ち、さび落とし清掃を行わなければならない。なお、素地調整は、3種ケレンとし、素地調整のグレードは、SIS規格でSt 3以上とするものとする。</p> <p>8 . 請負者は、海上輸送部材・海岸部に架設された部材及び塩分付着の疑いがある場合は、塩分測定を行わなければならない。塩分付着量の測定結果がNaCl 100mg/m²以上となった場合は、監督職員と協議するものとする。</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 道-5-1 | <p>第1節 適用</p> <p>5 . コンクリート構造物非破壊試験（配筋状態及びかぶり測定）については、次によるものとする。</p> <p>(1) 請負者は、設計図書において非破壊試験の対象工事と明示された場合は、非破壊試験により、配筋状態及びかぶり測定を実施しなければならない。</p> | <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>追記</p> <p>追記</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|---|---|----------------------------------|
| 道-5-1 | <p>(2) 非破壊試験は、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)(以下、「要領(案)」という。)」に従い行うものとし、試験結果の判定は要領(案)中の「非破壊試験による測定結果の判定手順」によるものとする。</p> <p>(3) 本試験に関する資料を整備・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに検査時に提出しなければならない。</p> <p>(4) 要領(案)により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。</p> | <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>追記</p> <p>追記</p> <p>追記</p> |
| 道-5-6 | <p>5 - 4 - 3 ポストテンション桁製作工</p> <p>(4) グラウトの施工に先立ち、ダクト内を水洗い等により洗浄を行うとともに、ダクトが閉塞していないことを確認する。</p> <p>(7) グラウトの施工については、ダクト内の残留水等がグラウトの品質に影響を及ぼさないことを確認した後、グラウト注入時の圧力が強くなりすぎないように管理し、ゆっくり行う。</p> <p>7. プレグラウトPC鋼材を使用する場合は、下記の規定によるものとする。</p> | <p>(4) 連続ケーブルの曲げ上げ頂部付近など、ダクト内に空隙が生じないように空気孔を設けるものとする。</p> <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>追記</p> <p>追記</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|---|---|
| 道-5-6 | <p>(1) PC鋼材は、JIS G 3536 (PC鋼線及びPC鋼より線) に適合するもの又はこれと同等以上の特性や品質を有するものでなければならない。</p> <p>(2) 使用する樹脂は、所定の緊張可能期間を有し、PC鋼材を防食するとともに、部材コンクリートとPC鋼材とを付着により一体化するものでなければならない。</p> <p>(3) 被覆材は、所定の強度、耐久性を有し部材コンクリートと一体化が図れるものでなければならない。</p> <p>(4) プレグラウトPC鋼材として加工された製品は、所要の耐久性を有していなければならない。</p> | <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>追記</p> <p>追記</p> <p>追記</p> <p>追記</p> |
| 道-5-15 | <p>5 - 1 0 - 4 架設工 (片持架設)</p> <p>3 . 支保工基礎の施工については、第 1 編 5 - 8 - 2 構造の規定によるものとする。</p> | <p>3 . 支保工基礎の施工については、第 1 編 3 - 8 - 2 構造の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> |
| 道-6-2 | <p>第 2 節 適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 山岳工法・同解説 平成18年 7月</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 開削工法・同解説 平成18年 7月</p> | <p>土木学会 トンネル標準示方書 (山岳工法編)・同解説 平成 8 年 7月</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 (開削工法編)・同解説 平成 8 年 7月</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|--|---|---|
| 道-7-1 | <p>土木学会 トンネル標準示方書 シールド工法・同解説 平成18年7月</p> <p>建設労働災害防止協会 ずい道工事等における喚起技術指針 (設計及び保守管理) 平成17年6月</p> <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 山岳工法・同解説 平成18年7月</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 開削工法・同解説 平成18年7月</p> | <p>土木学会 トンネル標準示方書 (シールド工法編)・同解説 平成8年7月</p> <p>建設労働災害防止協会 ずい道工事等における喚起技術指針 (設計及び粉じん等の測定) 平成14年3月</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 (山岳編) 昭和61年6月</p> <p>土木学会 トンネル標準示方書 (開削編) 昭和61年6月</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 道-7-2 | <p>建設労働災害防止協会 ずい道工事等における喚起技術指針 (設計及び保守管理) 平成17年6月</p> | <p>建設労働災害防止協会 ずい道工事等における喚起技術指針 (設計及び粉じん等の測定) 平成14年3月</p> | <p>表現の変更</p> |
| 道-7-5 | <p>7-6-3 インバート掘削工 インバート掘削工の施工については、第6編6-6-3インバート掘削工の規定によるものとする。</p> <p>7-6-4 インバート本体工 インバート本体工の施工については、第6編6-6-4インバート本体工の規定によるものとする。</p> | <p>インバート掘削工の施工については、第10編6-6-3インバート掘削工の規定によるものとする。</p> <p>インバート本体工の施工については、第10編6-6-4インバート本体工の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|-------|---|---|--|
| 道-7-5 | <p>7 - 7 - 3 箱抜工 箱抜工の施工については、第6編6 - 7 - 3箱抜工の規定によるものとする。</p> <p>7 - 7 - 4 裏面排水工 裏面排水工の施工については、第6編6 - 7 - 4裏面排水工の規定によるものとする。</p> <p>7 - 7 - 5 地下排水工 地下排水工の施工については、第6編6 - 7 - 5地下排水工の規定によるものとする。</p> | <p>箱抜工の施工については、第10編6 - 7 - 3箱抜工の規定によるものとする。</p> <p>裏面排水工の施工については、第10編6 - 7 - 4裏面排水工の規定によるものとする。</p> <p>地下排水工の施工については、第10編6 - 7 - 5地下排水工の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> <p>誤謬</p> |
| 道-8-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>日本道路協会 杭基礎施工便覧 平成19年1月</p> <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧 平成19年1月</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（設計編） 平成14年3月</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（施工編） 平成14年3月</p> <p>日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(防雪編) 平成16年4月</p> <p>日本道路協会 道路橋支承便覧 平成16年4月</p> | <p>日本道路協会 杭基礎施工便覧 平成4年10月</p> <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧 平成4年10月</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（設計編） 平成8年3月</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（施工編） 平成8年3月、平成12年1月</p> <p>日本建設機械化協会 新編防雪工学ハンドブック 昭和63年3月</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|---|---|---|
| 道-8-1 | <p>日本道路協会 道路防雪便覧</p> <p>平成2年5月</p> | 原文なし | 追記 |
| 道-9-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準 削除</p> <p>日本道路協会 杭基礎施工便覧</p> <p>平成19年1月</p> <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧</p> <p>平成19年1月</p> <p>日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(防雪編)</p> <p>平成16年12月</p> <p>日本道路協会 道路防雪便覧</p> <p>平成2年5月</p> | <p>日本道路協会 鋼道路橋塗装便覧</p> <p>平成6年2月</p> <p>日本道路協会 杭基礎施工便覧</p> <p>平成4年10月</p> <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧</p> <p>平成4年10月</p> <p>日本建設機械化協会 新編防雪工学ハンドブック</p> <p>昭和63年3月</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>追記</p> |
| 道-10-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧</p> <p>平成19年1月</p> | <p>日本道路協会 杭基礎設計便覧</p> <p>平成4年10月</p> | 表現の変更 |
| 道-12-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>土木学会</p> <p>トンネル標準示方書 シールド工法・同解説</p> <p>平成18年7月</p> | 原文なし | 追記 |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|--|--|-------|---------|--------|----|------------------------------|------|-----------------------|-----|---------------|-------|----------------------------------|-----|--------------|------|----|-----|-----------------|-----|----|--------------|
| 道-15-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>削除</p> <p>削除</p> <p>日本道路協会 舗装設計便覧 平成18年2月</p> <p>国土技術研究センター 景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン 平成16年5月</p> | <p>日本道路協会 セメントコンクリート舗装要覧 昭和59年2月</p> <p>日本道路協会 簡易舗装要綱 昭和54年10月 原文なし</p> <p>原文なし</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更 追記</p> <p>追記</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-15-12 | <p>15-9-2 作業土工(床掘り・埋戻し)</p> <p>作業土工の施工については、第1編3-3-3作業土工の規定によるものとする。</p> | <p>作業土工の施工については、第3編3-3-3作業土工の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道-15-17 | <p>15-16-3 橋梁塗装工</p> <p>削除</p> | <p>1.</p> <p>(1) 2、3、4種ケレン さびが発生している場合</p> <p>表15-2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さびの状態</th> <th>発錆面積(%)</th> <th>素地調整内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2種</td> <td>点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。</td> <td>30以上</td> <td>旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。</td> </tr> <tr> <td>3種A</td> <td>点錆がかなり点在している。</td> <td>15~30</td> <td>活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。</td> </tr> <tr> <td>3種B</td> <td>点錆が少し点在している。</td> <td>5~15</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種C</td> <td>点錆がほんの少し点在している。</td> <td>5以下</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> | 素地調整種別 | さびの状態 | 発錆面積(%) | 素地調整内容 | 2種 | 点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。 | 30以上 | 旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。 | 3種A | 点錆がかなり点在している。 | 15~30 | 活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。 | 3種B | 点錆が少し点在している。 | 5~15 | 同上 | 3種C | 点錆がほんの少し点在している。 | 5以下 | 同上 | <p>表現の変更</p> |
| 素地調整種別 | さびの状態 | 発錆面積(%) | 素地調整内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2種 | 点錆が進行し、板状錆に近い状態や、こぶ状錆となっている。 | 30以上 | 旧塗膜、さびを除去し、鋼材面を露出させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種A | 点錆がかなり点在している。 | 15~30 | 活膜は残すが、それ以外も不良部(さび・われ・ふくれ)は除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種B | 点錆が少し点在している。 | 5~15 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 点錆がほんの少し点在している。 | 5以下 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|-----------|---|--|------|------|----|---|---|-------------------------|-------|----|-------|---|---|--|-----|--------|-------|----------------------------------|----|-----|-------|--------|----|----|-----|------|-------|----|----|----|---|------|----------------|----|---|--------|-------|-----------|--------|-----|-------------------------------|-----|------------------|----|---|-----|-----------------------|---|
| 道-15-17 | <p data-bbox="369 268 436 300">削除</p> <p data-bbox="459 657 931 689">表15 - 2 素地調整程度と作業内容</p> <table border="1" data-bbox="280 699 1077 1209"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さび面積</th> <th>塗膜異常面積</th> <th>作業内容</th> <th>作業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1種</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。</td> <td>ブラスト法</td> </tr> <tr> <td>2種</td> <td>30%以上</td> <td>-</td> <td>旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗膜系の場合はジंकプライマーやジंकリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。</td> <td>ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法</td> </tr> <tr> <td>3種A</td> <td>15~30%</td> <td>30%以上</td> <td>活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種B</td> <td>5~15%</td> <td>15~30%</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3種C</td> <td>5%以下</td> <td>5~15%</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>4種</td> <td>-</td> <td>5%以下</td> <td>粉化物、汚れなどを除去する。</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="309 1232 1052 1391">2. 請負者は、海岸地域に架設または保管されていた場合、海上輸送を行った場合、その他臨海地域を長距離輸送した場合など部材に塩分付着の疑いがある場合には、塩分付着量の測定を行いNaCl 50mg/m²以上の時は水洗いするものとする。</p> | 素地調整種別 | さび面積 | 塗膜異常面積 | 作業内容 | 作業方法 | 1種 | - | - | さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。 | ブラスト法 | 2種 | 30%以上 | - | 旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗膜系の場合はジंकプライマーやジंकリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。 | ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法 | 3種A | 15~30% | 30%以上 | 活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。 | 同上 | 3種B | 5~15% | 15~30% | 同上 | 同上 | 3種C | 5%以下 | 5~15% | 同上 | 同上 | 4種 | - | 5%以下 | 粉化物、汚れなどを除去する。 | 同上 | <p data-bbox="1214 268 1892 347">さびがなくわれ・ふくれ・はがれ・白亜化・変退色などの塗膜異常がある場合。</p> <p data-bbox="1478 367 1601 399">表15 - 3</p> <table border="1" data-bbox="1131 406 1921 619"> <thead> <tr> <th>素地調整種別</th> <th>さびの状態</th> <th>塗膜異常面積(%)</th> <th>素地調整内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3種C</td> <td>発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。</td> <td>5以上</td> <td>活膜は残すが、不良部は除去する。</td> </tr> <tr> <td>4種</td> <td>発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。</td> <td>5以下</td> <td>同上。 粉化物・汚れなどを除去する。</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1214 657 1337 689">原文なし</p> <p data-bbox="1153 1232 1897 1391">2. 請負者は、海岸部に架設された部材及び塩分付着の疑いがある場合は、塩分測定を行わなければならない。測定結果で、塩分付着量がNaCl 100mg/m²以上となった場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとする。の時は水洗いするものとする。</p> | 素地調整種別 | さびの状態 | 塗膜異常面積(%) | 素地調整内容 | 3種C | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。 | 5以上 | 活膜は残すが、不良部は除去する。 | 4種 | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。 | 5以下 | 同上。 粉化物・汚れなどを除去する。 | <p data-bbox="1966 268 2112 300">表現の変更</p> <p data-bbox="1966 657 2022 689">追記</p> <p data-bbox="1966 1232 2112 1264">表現の変更</p> |
| 素地調整種別 | さび面積 | 塗膜異常面積 | 作業内容 | 作業方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1種 | - | - | さび、旧塗膜を完全に除去し鋼材面を露出させる。 | ブラスト法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2種 | 30%以上 | - | 旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積 30%以下で旧塗膜がB、b塗膜系の場合はジंकプライマーやジंकリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。 | ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの電動工具と手工具との併用、ブラスト法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種A | 15~30% | 30%以上 | 活膜は残すが、それ以外の不良部（さび・割れ・ふくれ）は除去する。 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種B | 5~15% | 15~30% | 同上 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 5%以下 | 5~15% | 同上 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4種 | - | 5%以下 | 粉化物、汚れなどを除去する。 | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 素地調整種別 | さびの状態 | 塗膜異常面積(%) | 素地調整内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3種C | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。 | 5以上 | 活膜は残すが、不良部は除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4種 | 発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が少し認められる場合。 白亜化・変退色の著しい場合。 | 5以下 | 同上。 粉化物・汚れなどを除去する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|--------|--|--|--|
| 道-16-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(除雪編) 平成16年12月</p> <p>日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック(防雪編) 平成16年12月</p> | <p>日本建設機械化協会 道路除雪ハンドブック 平成5年8月</p> <p>日本建設機械化協会 新編 防雪工学ハンドブック 昭和63年3月</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 道-16-3 | <p>16-3-5 凍結防止工</p> <p>4. 請負者は、凍結防止剤の保管等については、除雪・防雪ハンドブック(除雪編)8.5.8貯蔵及び積み込みの規定によらなければならない。</p> <p>16-3-7 安全処理工</p> <p>2. 人工雪崩の施工については、除雪・防雪ハンドブック(防雪編)6.2.5雪崩の処理の規定によるものとする。</p> | <p>4. 請負者は、凍結防止剤の保管等については、道路除雪ハンドブック6.5.3貯蔵及び積み込みの規定によらなければならない。</p> <p>2. 人工雪崩の施工については、新編防雪工学ハンドブック6.1.2人工なだれによる対策の規定によるものとする。</p> | <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |
| 道-17-1 | <p>第2節 適用すべき諸基準</p> <p>削除 日本道路協会 路上再生路盤工法技術指針案(案) 昭和62年1月</p> <p>削除</p> <p>削除</p> <p>削除</p> | <p>日本道路協会 鋼道路橋塗装便覧 平成6年2月 原文なし</p> <p>日本道路協会 簡易舗装要綱 昭和54年10月</p> <p>日本道路協会 アスファルト舗装要綱 平成4年12月</p> <p>日本道路協会 セメントコンクリート舗装要綱 昭和59年2月</p> | <p>表現の変更 追記</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> <p>表現の変更</p> |

長崎県建設工事共通仕様書 改定箇所一覧表 【改定20.4.1】

| 頁 | 改定後 | 改定前 | 摘要 |
|---------|---|--|-----------|
| 道-17-1 | <p>日本道路協会 舗装設計便覧 平成18年2月</p> | <p>原文なし</p> | <p>追記</p> |
| 道-17-10 | <p>17 - 16 - 7 雪崩予防柵工 雪崩予防柵工の施工については、第6編1 - 9 - 7 雪崩予防柵工の規定によるものとする。</p> | <p>雪崩予防柵工の施工については、第10編1 - 9 - 7 雪崩予防柵工の規定によるものとする。</p> | <p>誤謬</p> |
| 道-17-15 | <p>17 - 22 - 4 RC橋脚鋼板巻立て工 31. 表17 - 2の試験、検査で不合格箇所が出た場合は、 同一施工条件で施工されたとみなされる溶接線全延 長について検査を実施するものとする。なお、～</p> | <p>31. 表17 - 1の試験、検査で不合格箇所が出た場合は、 同一施工条件で施工されたとみなされる溶接線全延 長について検査を実施するものとする。なお、～</p> | <p>誤謬</p> |